

第2回 京都駅南口駅前広場エリアマネジメント会議 議事要旨

日 時：平成26年1月31日（金） 午前9時00分～午前10時20分

場 所：京都市役所F会議室

出席者：別紙のとおり

議 題：1 貸切バス部会における検討状況について

2 タクシー部会における検討状況について

3 路線バス部会における検討状況について

4 送迎部会における検討状況について

5 荷捌き部会における検討状況について

議事要旨

1 貸切バス部会における検討状況について

（資料に基づき事務局から説明）

（1）各委員からの意見

- 観光シーズン等の乗車と降車が重なる時間帯は、別途降車場所を確保しなければならないと思う。
- バスプール内に滞留するバスの騒音等により、沿道施設利用者への影響が懸念されるため、滞留時間を短くするよう努めていただきたい。
- 第2プールを設置する京都高速道路の鴨川西ランプ高架下駐車場と駅前広場の距離が遠いため、円滑に運用できるかが懸念される。

（2）とりまとめ

- ショットガンシステムを導入することで溢れ出し対策を行っていく。
- バスプールを円滑に運用できるように、利用者に対する運用ルールの周知を深めるとともに、周辺環境への配慮が必要である。
- 観光シーズン等のピーク時の乗車と降車が重なる時間帯は、周辺で降車スペースを確保して対応する。
- 供用開始までに社会実験を実施して適切に運用できるよう検討する。

2 タクシー部会における検討状況について

（資料に基づき事務局から説明）

（1）各委員からの意見

- ショットガンシステムを導入して、タクシープールからの溢れ出しがなくなれば環境も良くなると思う。

- ショットガンシステムの第2プールの候補地について、選定にあたっては地元住民に配慮していただきたい。
- 運用ルールについて、全ての運転手に遵守を徹底していただきたい。

(2) とりまとめ

- 溢れ出し対策について、指導の強化とショットガンシステムの導入を検討していくこととする。
- ショットガンシステムを導入する上で、運用場所、運用時間帯、周辺環境について、慎重に検討していくことが重要である。

3 路線バス部会における検討状況について

(資料に基づき事務局から説明)

(1) 各委員からの意見

- 現状は、多くの路線が競合しているため、利用者にわかりにくい状況である。
- 市バスでの好事例であるバスロケーションシステムの導入について検討が必要である。

(2) とりまとめ

- ダイヤ調整を行うためのルールを定めて調整を図っていく。
- 複数の事業者でバス停を共用するため、わかりやすい案内が重要である。
- バス停への案内やバスロケーションシステムの導入など、わかりやすい情報提供の取り組みについて検討していくこととする。

4 送迎部会における検討状況について

(資料に基づき事務局から説明)

(1) 各委員からの意見

- 送迎ゾーンの利用者へ、駅前広場内だけでなく、駅前広場までの経路上で、駐車場がないことなどを案内することが望ましい。
- ホテル送迎等常時利用しているバス以外の事業者への運用ルールの周知方法を検討する必要がある。
- 駐車目的の車を路外の駐車場へ誘導する方法を検討する必要がある。
- 運用ルールを守らない人に対して、どう対処するか検討が必要である。

(2) とりまとめ

- 駐車目的の車両については、時間制限駐車区間（パーキングチケット駐車場）の廃止を周知するとともに、付近の駐車場を利用してもらえるように、付近の駐車場への案内誘導を行っていく必要がある。
- 円滑な運用に向け、送迎ゾーンの利用ルールの周知と送迎バスのダイヤ調整が非常に

重要である。

- 部会に参画していない事業者に対して、どのように情報発信していくかが重要である。

5 荷捌き部会における検討状況について

(資料に基づき事務局から説明)

(1) 各委員からの意見

- 整備後は、時間制限駐車区間（パーキングチケット駐車場）がなくなるため、路外の荷捌きスペースを確保する必要がある。
- 商品の需給バランスにより、日々の荷捌き量が異なるため、荷物の集約等を考えるべき。
- 荷捌きスペースを一般車が使用できないしくみを考える必要がある。

(2) とりまとめ

- 路外で荷捌きすることを原則とする。
- 荷物の集約化等の検討を進め、荷捌きスペースを効率的に利用することが重要である。
- 運用ルールを検討するとともに、一般車が立ち入れない構造を検討することも必要である。